

課題項目	重点目標	達成基準	具体的取組	結果評価	改善策(2024年度取組)	所管部署
社会性獲得を目指した教育システムの構築	社会人基礎力の育成	2～3年生を対象に発想力育成を目的とした科目(総合Ⅳ)を設計する	前期中に総合Ⅰ～Ⅲを検証し、レベル設定、授業回数、運営方法を見直す後期から具体的な授業案作成と教員研修をおこなう	「総合Ⅳ」開講に向けて今年度試験導入した「社会デザイン演習」の検証結果から社会連携に求められる能力の育成が課題として明確になった。	「総合Ⅳ」を社会連携に向けた基礎力育成を目的として課外講座として実施し、同時に「総合Ⅳ」のアドバンス科目として「総合Ⅴ」を2025年度開講準備に取り組む。	全学
		協働強化に向けて対話型授業を全教科に導入する	勉強会を活用しながら各教科で対話型授業案を作成し、授業に盛り込む	対話型授業は前期から全教科で導入。後期は勉強会等を通じて各教員が授業運営状況を報告。学校説明会なども活用しながら改善につなげた。次年度に向けて実施目的別フローに取り組んだ。	各教員が教科特性に応じて取り組んでいる内容を研修会で教職員全体が共有する中で新たな対話手法の開発と導入を図る。	
	キャリア教育及び指導の充実	・進路指導プログラムを自己決定力の高い内容に修正する ・進路支援プログラム年平均参加率75%達成	・1～2年生対象に進路選択に必要な情報と求められる学力を理解し、行動できる2年間のプログラムを構築実施する	・進路希望調査・分野別ガイダンスを1年生から実施。後期は進路情報共有等、教員全体の進路指導力の底上げに取り組んだ。 ・進路支援プログラム参加率目標は達成(1年生88.8%、2年生75.5%)した。	生徒自らが進路を考えて決定するためには、キャリア意識の醸成が重要と位置付けてガイダンス強化と合わせてキャリア科目の2025年度開講を目標に取り組み、正課・課外両面でキャリア支援強化を図る。	進路部
		大学等連携科目をキャリア指導に主眼を置いた内容に再編実施する	進路や受講希望の多い分野に再編し、必要な力や魅力等の理解がより深まる内容に見直す	プロ科目を担当教員のキャリア紹介と関連ワークに重点を置いた内容に修正し、出席率が87%(前年度81%)まで向上した。	生徒の興味関心を探りながら授業で扱う業界の精査、運営方法の鑑賞改善をおこなう	
学力向上を目指したカリキュラム改革	正課・課外教育における学習進捗管理及び指導の徹底	・RST目標達成(R50%、S70%、T本試100%) ・進級率98%、卒業率100%達成	月毎に保護者と学習進度表を共有し、学習状況・学校生活・進路希望を電話等で情報共有しながら協働指導をおこなう	・R81.8%、S73.5%、T95.5%となり、RSは達成しTIは未達となった。 ・進級率(98.6%)は達成、卒業率(98.5%)は未達となった。	生徒個々の学習状況を生徒・保護者と共有しながら一緒に学習計画を立て、丁寧な学習支援をおこなう。	担任
		学習取組講座(レポート対策講座、試験対策講座、スタチャレ、社デ演)への参加促進	自学自習を目的として生徒個々の学力に応じた学習教材を準備提供するとともに、学力補強講座を開講し、個別指導によるフォローアップをおこなう	・レポート対策講座・試験対策講座とも、低学年前期の参加率が最も高く、学年が上がることにより低下する結果となった。 (レポート対策講座参加率21.6%、試験対策講座参加率29.5%)	対策講座をスクーリングと連動するプログラムに修正し、生徒の学習ベースを安定させ、参加を促すように改善を図る。	
	「学習の個性化と指導の個別化」の推進	・自学自習を目的とした生徒個々の学力に応じた学習教材を提供する ・学力補強講座を開講し、個別指導によるフォローアップをおこなう	国語と英語に絞って3レベル(入門・基礎・標準)の自習教材を準備、提供するとともに、学力補強講座(週1回)を開講して個別指導の強化を図る。	・学力補強としてスタディチャレンジ(個別の学習教材提供・指導)を試験導入。 ・前期末に検証改善し、後期は学力補強講座として英語チャレンジ講座(応用)を開講。入門、基礎は次年度に向けて講座見直し案作成に取り組んだ。	全生徒の8割以上が参加できる学習プログラム(3レベル設定)を構築する。	教務部
		・春期講座を学習定着と進路支援に絞った内容に修正し、必修化する ・春期講座出席率80%達成	春期講座を年間学習計画に組み込み、学年団と進路部が連携して進学主体の講座内容に再編実施する。	・進路部と学年団が連携してコンテンツ作成に取り組み、進路支援に絞って再編、必修化するとともに学力入試対策講座も実施した。 ・出席率は講座毎にバラツキがあり未達(1年生65.1%、2年生51.3%)となった。	2023年度の検証結果を踏まえて内容、時期、回数を各学年毎に修正実施する。	進路部
学習意欲の向上	ICTを活用した学習システムを学び直し学習、レポート課題学習に導入する	オンデマンド教材導入により学び直し学習の環境を整備する。レポートはタブレットシステム導入により、課題配信から採点返却までの時間短縮を図ることで、学習に取り組む時間を前年よりも増やす。	添削システム導入で課題配信から採点返却までが短縮化し、試験対策学習の時間が確保された。ICT導入により学び直しとレポート課題の学習指導が円滑になり、課題提出が早期化し、合格率も向上した。	2023年度の問題点を修正し、実施する。	教務部	
	新学習指導要領に沿って履修プログラムを再構築し、実施する	新学習指導要領に準拠しつつ、学習意欲向上や進路希望に沿った科目設定・年次配当を実施する。	新学習指導要領に沿って履修プログラムを構築して導入した。生徒の学習ニーズと進捗状況に応じた年次配当に変更した。	生徒の学習状況や進路希望等を検証し、課題点を抽出する。	事務局	
教育力強化に向けた体制の構築	教育の質を高める業務改善	業務の平準化を目指して分掌業務及び運営方法の検証・改善をおこなう	分掌毎に業務を再整理し、年間業務予定表と月間進捗管理表による運営管理を行なう。進捗報告・業務予定を定例会議に組み込むことで遅延や抜け漏れを防止する。	年間業務予定、月間進捗管理表による運営と業務チェックシート作成は取り組んだ。一部に抜け漏れ等があり、次年度の課題として残った。	業務平準化に向けて細かなマニュアル作成が分掌間でバラツキが見られ、これに取り組む残業削減を目指す。	各分掌
		レポートとスクーリングの連動強化に向けた運営組織を設置し、管理運営と検証改善をおこなう	レポート課題に無理なく取り組めることに主眼を置いたスクーリング授業を勉強会で構築し、実施する。	前期RST振り返り実施。RS運動を含め、課題抽出と次年度に向けて改善案作成を行なった。	学習支援制度(ベシック)として次年度から導入する。	学年団
	スムーズな学習指導実現に向けて担任と保護者の連携指導体制を構築する	学習進度表を保護者に毎月送付し、学習状況・学校生活・進路希望を電話等で情報共有しながら協働指導をおこなう。	2～3年生は学習進度表送付による保護者との情報共有は実施。1年生は添削システム導入により9月から実施。半期毎の保護者面談も含めて学習状況、学校生活に関する情報共有を図った。	添削システム修正により全学年で学習進度表による保護者連携を実施する。保護者面談は結果検証に基づき、内容・運営・時期等についてブラッシュアップをおこなう。	学年団	
	学習成果の可視化	新学習指導要領の評価観点に基づく新成績評価制度を導入する	中間試験から導入、年度末に評価方法及び運営方法について検証、改善をおこなう。	中間試験から新成績評価制度は導入済み	検証の上、課題点の改善に取り組む。	教務部
本校教育及び指導方針に沿った自己点検評価制度を導入する		「社会人基礎力育成と学力向上の取り組み」を主な評価項目とした自己点検評価制度を導入し、年度末に保護者及び連携校教職員による学校関係者評価も合わせて実施する。	自己点検評価表は作成し、後期終了後(4月～5月)に評価を行ない、5月末に結果を公表する。	学校関係者評価方法の見直しをおこない、修正実施する。		